鹿　折　小

気仙沼市立鹿折小学校
全校児童１８９名　学級数８学級
テーマ　地域とつながるＥＳＤＧｓ
①地域に根ざした教育
②地域から視野を広げる教育
③地域をつなぐ教育
④地域を拓く教育

鹿折小学校は、文部科学省より海洋教育課程特化した教育課程特例校の指定を受け、令和二年度より新設領域「海と生きる探究活動」を設定し、探究的な活動の充実を図ってきました。海との共生を目指す気仙沼・鹿折について、各教科と関連させながら理解を深め、地域（Local）から地球規模（Global）へと視野を広げた課題について考え解決に向けて行動する力を高めています。

低学年では、大島の小田の浜や階上の岩井崎、舞根森里海研究所で生き物に触れながら海に親しむ活動に取り組んでいます。中学年では、気仙沼や鹿折地区に大切に受け継がれる伝統文化や自然などの「地域の宝」について学び、鹿折川の水が育む命とは何か考えを広げていきます。高学年では、気仙沼市の水産業やまちづくりから、地球温暖化や人口の減少など、まちが抱える課題について、子どもの視点で探究しながら行動・解決を目指す取組をしています。本校の学びについて、「広報けせんぬま鹿折小支局」の子供たちが調査しまとめました。

１年生「鹿折・気仙沼の四季」
小田の浜にて

2年生「どきどきわくわく町たんけん」
舞根で生き物を学ぶ

3年生「鹿折の宝～人・自然・ものを見つけよう～」
天旗を学ぶ

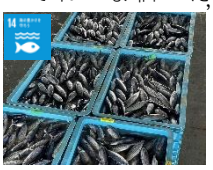
4年生「山・川・海～命をつなぐ鹿折川～」
田んぼで「水」を学ぶ

5年生「世界とつながるぼくらの海郷学」
みらい造船にて

6年生「海で復興 未来へつなぐ『気仙沼の魅力』発信プロジェクト」
山際シェフに学ぶ「スローフード」

○海の町気仙沼　未来へつなぐ『海の秘宝』

冷凍庫を見学し，『海の秘宝＝魚』が冷凍されているのを見ました。実際に中に入り，どれぐらい寒いのかを体感しました。めがねは一瞬で曇り，まつげも凍ってしまうほどの温度です。この素晴らしい冷凍技術があれば，新鮮な魚をそのまま冷凍して保つことができるので，食品ロスをなくせます。また，海から遠いところに住んでいる方にもおいしいままで気仙沼の魚を届けることもできます。これからも『海の秘宝』を未来に残すためにどうすればよいかみんなで考えたいです。



○ケンタロ・オノさんのお話を聞いて

キリバス共和国は，このまま地球温暖化が進めば近い将来海に沈んでしまうかもしれないと言われている国です。日本から遠い国ですが，今回ケンタロさんからこの国のお話を聞いて，日本との関係や暮らし方の違い，温暖化の深刻さについて知り，とても驚きました。ぼくたちにもできる温暖化対策について，少しずつでも取り組めることを考えていきたいと思います。交流が楽しみです。

○伝統行事「雪上カルタ大会」を守りたい

四年生のときは，雪が足りなくて体育館で寒中カルタ大会を行いました。昨年度は，何とか雪が積もって実施することができました。全校で考えた取り札や読み札を使って，コロナに気を付けながら頑張りました。この行事を通して一年生から六年生の交流もできました。最近，温暖化の影響で雪が積もらなくなってきています。鹿折小学校では五，六年生が「家庭科ＳＤＧｓ」に取り組み，二酸化炭素を減らすため，エコバッグを使う取り組みなどを紹介しています。

白山小学校から受け継いだ「雪上カルタ大会」を，これからも鹿折小学校の伝統として守っていくために自分たちができることを考えていきたいと思っています。

○「ぱくぱく週間」の取組で食品ロスを減らしたい

国連世界食糧計画の食料援助量は年間約三二七万トン。それに対して日本ではその二倍に当たる約六一二万トンもの食料を廃棄しています。この問題を解決するために，鹿折小学校では月に一回，「ぱくぱく週間」という活動に取り組んでいます。給食を残さずに食べた人数を学年ごとに集計し順位を付けて発表しています。食品ロスについて全校で考え，この問題を少しでも解決できたら良いと思って続けています。

○海と生きる気仙沼をこれからも

五年生では，マグロ延縄船への乗船体験や造船所の見学をしました。船内の見学では，漁師さんに実際に話を伺いながら，魚を保存する冷凍室や操縦室に案内していただきました。また，造船所では，特殊な技術を使って船を製造していることを知り，その大変さや技術のすばらしさに驚きました。今年は六年生なので，この学習をもとに，海と生きる気仙沼のまちづくりについて学びを深めていきたいと思っています。

ぼくたちが記事を書きました。
広報けせんぬま鹿折小支局

局長	昆野龍太郎
副局長	尾形　陽希
支局員	後藤　　陸
支局員	村上　　静那
支局員	村上　　悠